

日蓮 ニチレン 1222 ~ 1282

鎌倉中期の僧。日蓮宗の開祖。幼名、薬王丸・善日曆(ぜんにちまる)。僧名は蓮長、のちに日蓮。

日蓮は承久4(1222)年、安房小湊にて漁師の子として生まれた。12歳ごろから安房の天台寺院清澄寺で初等教育を受け、16歳で出家した。後、鎌倉で浄土宗や禅宗を研究し、近畿内の諸寺や延暦寺では天台宗の教理を学ぶ。建長5(1253)年、清澄寺で法華信仰弘通(くつう)を開始。法華経至上の立場から浄土教を批判して同寺を追放され、鎌倉名越で辻説法を開始した。

文応元(1260)年『立正安国論』を北条時頼に提示したが、為政者を刺激したため、翌年伊豆に流刑。弘長3(1263)年、赦免。蒙古襲来が予想される中、諸宗を否定して法華信仰を勧めた日蓮は、幕府に反秩序的とみられて弾圧された。鎌倉竜口の刑場で処刑されそうになるが、危く斬首の危機を免れ、佐渡へ流罪となった。彼は流された佐渡で『開目抄』『観心本尊抄』を著している。文永11(1274)年放免された彼は鎌倉へ帰り、のち甲斐身延山に入って、弟子の教育と伝道に専念した。死を前にしての下山途中、武蔵池上にて61歳で没した。

Great Books 50 立正安国論(りっしょうあんこくろん)

『開目抄』『観心本尊抄』とともに、日蓮の代表的著作。10段からなり、旅客と主人の問答という形式をとる。原文は漢文体。

日蓮が本書を記した背景には、正嘉元(1257)年から文応元(1260)年にかけて地震・飢饉・疫病が続出して、死者・病者が続出したという事実がある。当時鎌倉にいてこの惨状を目撃した日蓮は、災害続出の原因と対策を宗教者の立場から考えて本書を記し、対策の実施を幕府に求めた。彼の主張の中心にあるのは、「正しい仏法を立てて国を安んずる」というものである。日蓮は「正法が樹立されれば(立正)、国土は安穩、人々は安泰に暮らすことができる(安国)であろう」と考えたのであった。つまり、邪法である浄土教に人々が帰依して法華信仰を捨てたことが災害続出の原因でであると、浄土教徒への布施を禁止し法華信仰へ回帰しなければ、内乱が起こって外国から侵略されると主張したのである。この立正安国思想は、彼の教学信仰の中核をなすものであって、生涯を通じて主張された。

汝、早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよは、第9段、結論部分の言葉であり、この言葉を含む64字(漢文)の文には、日蓮の宗教の基本的理念が示されている。

Key Phrase 汝、早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ

旅客来りて嘆いて曰く、近年より近日に至るまで、天変・地天・飢饉・疫癘、遍く天下に満ち、広く地上に迸る。牛馬巷に斃れ、骸骨路に充てり。死を招くの輩、すでに大半を超え、これを悲しまざるの族、あえて一人もなし。(第1段)

なかんずく、人の世にあるや、各々後生を恐る。ここをもつて或は邪教を信じ、或は謗法を貴ぶ。各々是非に迷うことを悪むといえども、しかもなお仏法に帰することを哀れむ。何ぞ同じく信心の力をもつて、妄に邪義の詞を宗ばんや。もし執心翻らず、また曲意なお存せば、早く有為の郷を辞して、必ず無間の獄に墮ちなん。(第9段)

汝、早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ。しかればすなわち三界は皆仏国なり。仏国それ衰えんや。十方は悉く宝土なり。宝土何ぞ壊れんや。国に衰微なく、土に破壊なくんば、身はこれ安全にして、心はこれ禅定ならん。この詞、この言、信ずべく崇むべし。(第9段)

(謗法)

誹謗正法の略で、仏の教えをそしること

(実乗の一善)

法華経のこと。実乗とは権乗(仮りの教え)に対する語で、真実の仏意を説いた教えのこと。一切衆生の成仏を実現する唯一の善教であるから、法華経を実乗の一善という。

(三界)

欲界・色界・無色界の三つの迷いの世界

(現代語訳)

旅人が来て嘆いていう。近い正嘉元年のころから今年文応元年にいたる四箇年の間に、大地震や大風などの天変地異が続き、飢饉が起こり、疫病が流行して、災難が天下に満ち、広く地上にはびこっています。そのために牛や馬はいたるところで死んでおり、骸骨は路上に散乱して目もあてられず、すでに大半の人びとが死に絶えて、この悲惨な状態を悲しまない者は一人もおりません。

ことに、人は誰でも死後のことを恐れるものです。そのために誤って邪教を信じたり、あるいは謗法の教えを貴んだりしてしまうのです。その是非・善悪に迷うことは悪いことですが、仏法に帰依しようとする心はまことに尊いことです。ゆえに同じく信心をするなら、邪教を信じてはいけません。もし邪教にとられる心を改めず、間違った考えがいつまでも残っているならば、天寿をまっとうすることなく早くこの世を去り、死んでのちは必ず無間地獄に墮ちるであります。

貴殿は一刻も早く邪まな信仰を捨てて、ただちに唯一真実の教えである法華経に帰依しなさい。そうするならば、この世界はそのまま仏の国となります。仏の国は決して衰えることはありません。十万の世界はそのまま浄土となります。浄土は決して破壊されることはありません。国が衰えることなく、世界が破壊されなければ、わが身は安全であり、心は平和であります。この言葉は真実であります。信じなければなりません、崇めなければなりません。

< 小松邦彰(訳)『日蓮聖人全集 第1巻』 春秋社 >

◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 立正安国論(中公クラシックス) / 紀野一義(訳)
中央公論社 2001年刊 25, 406 p <188.93LL / 2> 資料番号 21540885
- 📖 立正安国論
安国論寺 1998年刊 43 p <K18.4 / 288> 常置(かながわ資料室) 資料番号 60264447
* 原文を対照した読み下し文
- 📖 日蓮聖人全集 第1巻 / 渡辺宝陽, 小松邦彰(編)
春秋社 1992年刊 485, 19 p <188.9 / 154 / 1> 資料番号 20511564
- 📖 日本の名著8 日蓮 / 紀野一義(編)
中央公論社 1970年刊 526 p <081.6 / 34 / 8> 資料番号 12785044
- 📖 日本古典文学大系 82 親鸞集 日蓮集 / 兜木正亨, 新聞進一(校注)
岩波書店 1964年刊 520 p <918 / 9 / 82> 資料番号 12790960

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 日蓮の思想構造 / 佐々木馨(著)
吉川弘文館 1999年刊 <188.92HH / 5> 資料番号 21173760
- 📖 日蓮聖人全集 全7巻 / 渡辺宝陽, 小松邦彰(編)
春秋社 1992 ~ 1996年刊 <188.9 / 154 / 1 ~ 7>
- 📖 日蓮聖人大事典 / 石川教張, 河村孝照(編)
国書刊行会 1983年刊 826 p <188.9 / 91> 資料番号 10293967
- 📖 日本思想大系 14 日蓮 / 戸頃重基(ほか校注)
岩波書店 1970年刊 622 p <081.6 / 28 / 14> 資料番号 10149938
- 📖 日本の思想 4 日蓮集 / 田村芳朗(編)
筑摩書房 1969年刊 400 p <121 / 45 / 4> 資料番号 10193761